

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第3号を下記のとおり発表したので送付します。

平成21年度病虫害発生予報第3号

平成21年5月28日  
岡山県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水 稻	葉いもち ヒメトビウンカ 縞葉枯病 ツマグロヨコバイ 萎縮病 イネミズゾウムシ ニカメイガ イネドロオイムシ	並 — — — — — — 並	並 やや多 やや多 やや少 やや少 やや少 やや少 並 並
ジャガイモ	疫病	並	並
モ モ	灰星病 黒星病 せん孔細菌病 モモハモグリガ ナシヒメシンクイ カメムシ類	— 並 やや遅 — — —	やや少 やや少 やや少 やや多 やや多 やや多 少
ブドウ	べと病 うどんこ病 フタテンヒメヨコバイ	やや早 やや早 —	並 やや多 並
トマト	疫病 灰色かび病 葉かび病	並 — —	並 やや多 並
キュウリ	べと病 褐斑病 炭疽病	— — やや遅	並 やや少 やや少
ダイコン	軟腐病 コナガ	やや遅 —	やや少 やや少
野菜全般	アブラムシ類 モザイク病 ミナミキイロアザミウマ	— — —	並 並 並
キ ク	白さび病 ナミハダニ	— —	並 やや少

## 1. 普通作物

(水 稲)

### (1) 葉いもち

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 中北部地帯の田植時期は概ね平年並であった。田植後の生育状況も概ね平年並である。

イ. 5月22日の季節予報によると、6月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされており、降水量は発病を助長する気象条件ではない。しかし、気温が低温で推移し、6月下旬に曇りや雨の日が多い場合は発生を助長する要因となるので、今後の天候に十分注意する。

防除上の参考事項

ア. 本病の発生地域においては、育苗箱施用剤による防除が普及しているが、育苗箱施用剤の残効は40～60日とされている。5月中旬までの田植えでは6月下旬頃から効果がなくなるので、その後新たな病斑がみられる場合は薬剤を散布する。

### (2) ヒメトビウンカと縞葉枯病

予報内容

発生量	ヒメトビウンカ (第1世代成虫)	やや多
	縞葉枯病	やや多

予報の根拠

ア. 県予察圃場におけるヒメトビウンカ成幼虫の5月の発生量は285頭と平年(191.6頭)よりやや多く、うち本虫の発生源となる麦ほ場では107頭と平年(71.7頭)よりやや多かった。

イ. 県予察圃場におけるイネ縞葉枯病ウイルスの保毒虫率は6.5%であった(平成15年までの過去10年間(平成16～20年は欠測)の平均保毒虫率1.1%)。

ウ. 縞葉枯病は、媒介虫であるヒメトビウンカの発生量が多いことから、平年よりやや多いと考えられる。

### (3) ツマグロヨコバイと萎縮病

予報内容

発生量	ツマグロヨコバイ (第1世代成虫)	やや少
	萎縮病	やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場におけるツマグロヨコバイの5月の発生量は28頭と平年(57.8頭)より少なく、幼虫の発生量は20頭と平年(34頭)よりやや少なかった。

イ. 萎縮病は近年少発生が続いており、媒介虫であるツマグロヨコバイの発生量がやや少ないことから、平年より少ないと考えられる。

### (4) イネミズゾウムシ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月25日の巡回調査によると、成虫による被害発生圃場率は30.0%で平年(33.6%)並であり、株当たり成虫数は0.006頭で平年(0.028頭)より少なかった。

### (5) ニカメイガ(越冬世代成虫)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月1～5半旬まで、赤磐市のフェロモントラップへの飛来を認めていない。

(6) イネドロオイムシ

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月25日の巡回調査によると、圃場での発生は認められなかった。

イ. 育苗箱施用剤及び本田施用剤が広く普及しているので、平年並に少発生が続いている。

(ジャガイモ)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月20～21日および25日の巡回調査では発生を認めなかった。

イ. 5月22日の季節予報によると、6月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する気象条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 初発生後は、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2. 果 樹

(モ モ)

(1) 灰星病 (早生種)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 一般圃場における5月8、22日の巡回調査では、花腐れ、芽枯れ、枝病斑の発生量は平年よりやや少なかったため、幼果の感染量も同様に平年よりやや少ないと考えられる。

イ. 低温と降雨日数が多い場合は発生を助長する要因となるが、5月22日の季節予報によると、6月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する気象条件ではない。

(2) 黒星病

予報内容

発生時期 並 発生量 やや少

予報の根拠

ア. モモの生育はほぼ平年並に推移している。

イ. 5月22日の巡回調査では、枝上の越冬病斑密度は全般的に平年よりやや少なかった。

ウ. 幼果における本病の潜伏期間は約35日 (果実生長第2期以降は20日) とされている。5月の降水量は平年よりやや少なかったため、幼果への感染は平年よりやや低いと考えられる。

(3) せん孔細菌病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月22日の巡回調査では発生圃場率は0%で、平年(9.9%)より低かった。

イ. 5月22日の季節予報によると、6月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされており、現時点では発病を助長する気象条件ではない。しかし、梅雨入り後の連続降雨や風を伴う降雨等で発病が助長される恐れがあるので注意する。

(4) モモハモグリガ (第2世代幼虫)

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、第1世代成虫の初飛来日は5月12日で平年(5月12日)並であり、5月1～5半旬の誘殺数は6頭で平年(69.6頭)より少なかった。

イ. 近年は少発生が続いていたが、5月22日の巡回調査における発生圃場率は14.3%で、平年(0.3%)より高かった。

(5) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、第1世代成虫の初飛来日は5月9日で平年(5月22日)より早く、5月1～5半旬の誘殺数は3頭で平年(5.0頭)並であった。

イ. 5月22日の巡回調査における心折れの発生圃場率は14.3%で、平年(2.0%)より高かった。

(6) カメムシ類

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 予察灯における5月1～5半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は赤磐市では0頭で平年(23.5頭)より少なく、津山市では1頭で平年(23.4頭)より少なかった。

イ. 5月22日の巡回調査において被害果は認められなかった。

ウ. 5月22日の季節予報によると6月の気温は平年並か低いとされており、飛来数の増加に好適な要因ではない。

(ブドウ)

(1) ベと病

予報内容

発生時期 やや早 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育(開花期)は平年よりやや早く推移している。

イ. 県予察圃場のベリーA(無被覆栽培)における5月26日までの調査で、初発生(平年:6月4日)を認めていない。

ウ. 5月22日の巡回調査では平年どおり発生を認めていない。

エ. 5月22日の季節予報によると、6月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する気象条件ではない。

(2) うどんこ病

予報内容

発生時期 やや早 発生量 やや多

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育(開花期)は平年よりやや早く推移している。

イ. 本病は少雨多照条件で発病が多いとされる。5月22日の季節予報によると、6月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされており、降水量が少ない場合には発病を助長する要因となる。

(3) フタテンヒメヨコバイ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月22日の巡回調査における被害発生圃場率は8.3%で、平年(0.6%)より高かったが、被害程度は軽微であった。

### 3. 野菜

(トマト)

#### (1) 疫病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場(5月12日定植)では、発生を認めていない。

イ. 5月20~21日の巡回調査では、昨年同様発生を認めなかった。

ウ. 5月22日の季節予報によると、6月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 初発生後は、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

#### (2) 灰色かび病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 県予察圃場(5月12日定植)では、発生を認めていない。

イ. 5月20~21日の巡回調査では、施設栽培での発生量はやや多かった。

ウ. 本病は気温が20℃前後のやや低温と多湿条件下で発生が多くなる。5月22日の季節予報によると、6月の気温は平年並か低いとされているが、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

#### (3) 葉かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場(5月12日定植)では、発生を認めていない。

イ. 5月20~21日の巡回調査では、施設栽培での発生量はやや多かった。

ウ. 5月22日の季節予報によると、6月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 施設内では、多湿にならないように換気する。

イ. 肥切れすると発病が多くなるので、適切な肥培管理をする。

(キュウリ)

#### (1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月20~21日の巡回調査では、施設栽培、露地栽培ともに発生量は平年並であった。

イ. 5月22日の季節予報によると、6月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

#### (2) 褐斑病

予報内容

発生量 やや少



ないとされており、発生を特に助長する要因ではない。

#### 4. 花 き

(キ ク)

##### (1) 白さび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月20～21日の巡回調査では、発生量は平年並であった。

イ. 5月22日の季節予報によると、6月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

##### (2) ナミハダニ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月20～21日の巡回調査では、発生量は平年よりやや少なかった。

イ. 5月22日の季節予報によると、6月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされており、発生を特に助長する要因ではない。

### 病虫害発生予察情報テレホンサービス

岡山県病虫害防除所では、主要病虫害の発生状況や防除に関する情報を迅速にお知らせするために、テレホンサービスを実施しております。気軽にご利用ください。

電話：086-955-2224

### 携帯電話用アドレスの公開

予報、注意報、警報については携帯電話用の情報（簡易版）を公開しています。

アドレスは

<http://www.pref.okayama.jp/norin/nousou/kei/top.htm>



QRコード